

北國文華第67号

本社の本

北國文華 2016春
第67号

相撲文化の精華

100回刻む高校相撲金沢大会

嵐山光三郎ほか

私と金沢大会

琴奨菊 元舛田山

豪栄道 元武双山

橋畑山 元出島

元丹藏 元橋東

新連載 安部龍太郎「等伯との旅」

青春の土俵
多方面から

金沢市の石川県卯辰山相撲場で5月22日に開かれる高校相撲金沢大会は、今年で100回の節目となる。日本の高校スポーツ最古とされる大会の歩みを集め、青春の土俵を多方面から分析している。

作家の嵐山光三郎氏は「土俵ママ(選手の母親)、スーショ(相撲好き女子)、校長先生、芸者のお姐さん、塗師、相撲部長、彫刻名人、角力好きの住職、飴屋、市場の親方(以下略)」といった応援する人々の多彩さを目を見張りながら「金沢

という優雅な町が、そのじつ激しくぶつかる相撲という荒ぶる格闘技を内在しているという奇跡をつづっている。

「私と金沢大会」と題して、琴奨菊や豪栄道ら現役の大関、親方や元力士が回顧している。一般社団法人石川県相撲連盟副会長の橋本俊一氏、元放送委員の陶山弘一氏、加能民俗の会会員の西山郷史氏も寄稿した。直木賞作家の安部龍太郎氏の連載「等伯との旅」が始まった。

(北國新聞社・1728円)